

平成30年度 袖ヶ浦市立図書館サービス状況 点検・評価

「袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画（後期）」〈5〉サービス目標 より

“「図書館は、そのサービス水準の向上を図り、図書館の目的及び社会的使命を達成するため「数値目標」を設定し、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行なうとともに、その結果を市民に公表するように努めます。”

評価基準

- A：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上
- B：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満
- C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。達成率 60%未満

後期計画の目標値については平成28年4月に設定し、平成30年11月に一部を改訂した。

令和元年9月
袖ヶ浦市立中央図書館

評価基準	A：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上 B：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満。 C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。達成率 60%未満。
------	--

(注) ☆は、後期計画（平成28年度～令和2年度）で追加した指標

サービス目標（1）資料及び情報の収集、提供等

令和2年度想定市人口 64,000 人
平成31年4月1日市人口 63,704 人

サービス評価指標	実績(H.30)	目標(R.2)	達成率	
☆①図書購入タイトル数/購入冊数(%)	85.2	90.0	94.7%	A
☆②蔵書冊数(所蔵図書冊数)	698,317	710,000	98.4%	A
☆③市民一人当たりの蔵書冊数(冊/人)	11.0	11.1	99.1%	A
④袖ヶ浦市関係資料の受入冊数(冊/年)	392	270	145.2%	A
⑤年間利用者数(人/年)	148,243	155,000	95.6%	A
⑥市民新規登録者数(人/年)	1,165	1,200	97.1%	A
⑦市民登録率(%)	42.5	60.0	70.8%	B
⑧資料貸出数(点/年)市外含む総計	548,560	650,000	84.4%	A
⑨市民一人当たりの貸出数(点/人)	8.6	10.2	84.3%	A

(後期計画におけるサービス内容)

「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、資料の整備に努めます。

第3次図書館サービス網計画の中で、資料整備については、「人口1人当たり10冊を基本に640,000冊を目標とします。」とうたっています。現在、蔵書冊数は69万冊を越え、前期の目標値は達成していますが、図書館資料については、最新の情報を提供し書架の新鮮さを保つためには継続的な更新が必要であることから、今後も開架資料の5%の更新を目標として、市民に多種多様な学習要求に応えられるように、幅広いタイトル数を購入するよう努めてまいります。

少子高齢化の急速な進行に伴い、図書館の利用についてはこの5か年で、資料貸出総数、新規登録者数等については減少傾向にあります。

図書館としては、利用者により資料に関心を持ってもらうための時宜的な資料展示やテーマ展示、また転入者への利用案内の配布、県立袖ヶ浦高校生に利用案内を配布するほか、今後も図書館資料の情報提供を進め、利用の拡大に努めます。

内部評価

○全体評価 : A

- ・新刊図書からの選定、必要に応じて遡及での図書購入を行ったほか、郷土行政資料を主に寄贈の依頼も行い、全館の開架書架の図書318,582冊に対して13,866冊（うち購入図書12,672冊）を受け入れし、開架書架の約4.4%を更新することが出来た。（冊数は平成31年3月31日時点の数値）
- ・図書館利用につながる広報活動や図書館資料の紹介に年間を通じて積極的に取り組んだことにより、資料の提供に係るサービス指標が、⑤年間利用者数、⑥市民新規登録者数だけでなく、平成21年度以来減少が続いていた⑧資料貸出点数についても、平成29年度実績から5,697点の貸出増となった。（平成29年度：542,863点→平成30年度：548,560点）ただし、市人口も増加していることから、サービス指標⑨市民一人当たりの貸出数は、前年度並みにとどまった。

○課題

- ・高齢化が進行する中で、平成29年度は長浦の医学書、平成30年度は社会福祉関連図書と、市民の関心が高い分野の図書を重点的に収集したが、内容の改定や法改正が著しい分野なので、今後も継続して積極的に新刊を購入し、書架の更新を図っていく必要がある。
- ・⑥市民新規登録者数は平成28年度以降増加しているものの、毎年1,500人前後の10年未利用の市内登録者を除籍しており、⑦市民登録率は減少している。この除籍の約半数が20歳代から50歳代であることから、新規登録をさらに増やす取り組みを行うとともに、図書館を利用しなくなる20歳代から50歳代に向けたアプローチが必要である。

○今後の対応

- ・内容の改定の頻度が高い医学書、社会福祉関連図書の充実を図り、認知症や介護、終活など高齢者の関心が高い図書を積極的に収集する。
- ・新規登録者を増やすための取り組みとして、おはなし会や映画会、講座・講演会など乳幼児から高齢者まで様々な年代を対象とする集会事業を開催し、これらの図書館事業の案内を市内の図書館外の施設にも積極的に掲示する。また、余暇時間の少ない20歳代から50歳代の勤労世代に対し、ホームページやSNS等を活用して、読書や生活課題の解決につながる様々な情報を提供していく。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・内容の改定が著しく、市民の関心も高まっている社会福祉関連の図書を重点的に収集し、日本十進分類法の分類「369：社会福祉」の一般書を全館で165冊収集し、同分類の全開架図書1,981冊の約8.3%を更新することができたほか、9月には認知症関連図書やパンフレットを集めた「認知症コーナー」を中央図書館に新しく設置した。
- ・その他にも、日本十進分類法の分類「49：医学・薬学」の一般書を全館で648冊収集し、同分類の全開架図書9,999冊の約6.5%を更新するなど、新鮮な情報が求められる分野や内容の古くなった分野の資料を充実させることができた。

- ・6月には中央図書館の文庫棚を増設し、青少年向けだけでなく高齢者向けにも需要の増えている文庫本を積極的に収集した。市内3つの図書館の文庫コーナー及び青少年コーナー全体で文庫本1,184冊を収集し、開架の文庫本全16,123冊の約7.3%を更新することができた。
- ・新着図書がより多くの来館者の目に触れるように、12月からは全館で一度貸出した図書も受入後60日間は再度「新着図書コーナー」へ排架することにし、貸出の増につながった。
- ・児童書について資料選定基準を一部改訂し、学習漫画も選定対象とし、「絵によって固定したイメージを与えることや理解の妨げになることなどを考慮したうえで、各主題の選定の視点に基づき、かつ主題をより分かりやすく表現し、漫画が理解の助けとなっているものを慎重に検討する」こととした。

<継続>

- ・おすすめ図書のリストを一般向けに2種類「男女共同参画社会関連図書リスト」「新成人に贈るお薦めの100冊」、パスファインダー（調べ案内）を一般向けに1種類「新聞記事の探し方」、児童向けに1種類「生き物を調べる」を新たに作成した。
- ・袖ヶ浦高等学校の生徒全員に、「図書館を使いこなそう」という利用案内（裏面は青少年向けのお薦め図書リスト「ティーンズ・トショロ」）を配布した。
- ・夏休み中に全館で「宿題おたすけコーナー」を設置し、児童の利用促進を図った。
- ・4～5月の「こどもの読書週間記念行事」、7～8月の「夏のトショロ月間、10～11月の「秋のトショロ月間」など長期間の大型イベント、そして新年企画として1月には「えほんのふくぶくろ」を全館で行ったほか、中央図書館、長浦おかのうえ図書館、平川図書館では月替わりで時事的な関心の高いテーマの関連図書を「特設コーナー」に集めて紹介するなど、年間を通じて様々な形で市民の読書意欲を喚起する取り組みを行った。
- ・「子どもの本の講座」や「文芸講座」、定例の映画会の開催時には関連図書を受付で紹介し、その場で貸出できるようにした。
- ・市役所の市民課、長浦・平川行政センターにおいて転入者へ図書館の利用案内を配布したほか、袖ヶ浦高等学校の新生児に対して高校生向けに作成した利用案内を配布した。また、ブックスタートでは、幼児向けのおすすめリストとあわせて利用申込書を配布し、利用喚起を図った。

外部評価

○全体評価 : A

○図書館協議会からの意見

- ・子育て世代の転入者が増えている中で、チラシのポスティングなどにより、図書館の利用増につなげる新しい取り組みが成果を挙げているので、今後も継続して取り組んでいただきたい。
- ・市民登録率の向上については、他の自治体の事例も調査しながら、本市の人口分布、図書館で除籍対象となる10年未利用登録者の年代や地域、性別などの傾向を分析して対応策を考えていただきたい。

サービス目標（２）社会情勢の変化に対応したサービスの充実

令和2年度想定市人口 64,000人

平成31年4月1日市人口 63,704人

サービス評価指標	実績(H.30)	目標値 (R.2)	達成率	
⑩一日あたりのホームページアクセス件数 (件/日)	255.6	315	81.1%	A
⑪一ヶ月あたりのWeb予約件数(件/月)	2,756.4	2,250	122.5%	A
☆⑫学校図書館への対応 ・団体貸出総冊数(冊数/年)◆	3,270	3,000	109.0%	A
⑫学校図書館への対応 ・出張おはなし会参加者数(人/年)◆	6,013	5,000	120.3%	A
⑬レファレンス件数(件)	1,139	800	142.4%	A

◆【平成30年11月改定】学校図書館・学校ボランティア活動の充実を勘案し、目標値を変更した。

（後期計画におけるサービス内容）

①情報化社会への対応

今後も、ホームページの充実を図り、またメールマガジンの発行により、新着資料の情報提供や個々に関心の高い資料情報の提供を行うなど、より利便性の高い情報発信を行ってまいります。

②学校図書館への対応

学校図書館への支援については、今後も引き続き、団体貸出、レファレンスサービス、学級文庫への読み物のセット貸出を行うなど学校図書館を通した子どもたちの読書への支援をさらに推進します。また学校を訪問してのおはなし会等を開催し、調べ学習の支援を行います。

③高齢化社会への対応

高齢者にとって、より利用しやすい図書館を目指し、今後も大活字本の提供、朗読CDの積極的な収集提供に努めます。

④関連施設・関係課との連携

他の公共図書館との連携により、市民への資料提供をより一層充実させます。また今後も他の公共図書館、学校図書館、博物館などの教育施設との連携を図り、子育て支援を推進し、図書館利用の促進のため、関係課との連携をより強化していきます。

⑤国際化への対応

国際化が急速に進展し、子どもから大人まで、市民が外国の文化に触れる機会も増大しています。より外国の文化を理解し、外国人に日本文化を紹介するための外国語資料の充実を図り、外国語による利用案内等を作成します。

⑥職業能力開発の要求への対応

労働を取り巻く環境の変化により就職、転職、能力開発、日常の仕事等で情報を必要とする市民は増加しています。こうした利用者に対応するための資料の収集・提供、適切なレファレンスの実施等、個人の学習ニーズに応える機能を高め、図書だけでなく、就労や資格取得の

ためのパンフレットやチラシ等による情報提供、インターネットを活用した情報や、法律・経済関連のデータベースの提供を行います。

⑦レファレンスサービスの充実と利用促進

レファレンスサービスについては、情報量が増大し、多種多様となっている現代社会において、課題解決のための支援はますます重要になっています。市民の課題解決支援に対応するために必要な図書資料及び電子資料の提供に努めます。

内部評価

○全体評価 : A

- ・パソコン版のホームページへのアクセス件数は微増だが、スマートフォンや携帯電話などモバイル用の検索サイトを含めると、ウェブ上の蔵書検索は年々大幅に増加している。これに伴い、Web予約件数もさらに増加した。

(参考指標) 検索サイトを含めた1か月当たりの総ページビュー数

平成28年度：341,644.8件、平成29年度：409,220.7件、

平成30年度：595,455.9件

- ・SNSを活用した広報活動として、これまで必要に応じて市役所経由でツイッターを発信していたが、9月から図書館の公式ツイッターを開始した。図書館独自のツイッターを運用することで、図書館からの情報発信が質量ともに充実した。
- ・おはなし会の依頼がない学校に対し図書館から積極的に働きかけたことで依頼件数が増え、学校への出張おはなし会の参加人数が大幅に増加した。(平成29年度：3,492人→平成30年度：6,013人)
- ・学校の読書指導員(令和元年度からは「学校司書」)の研修会に参加して意見交換を行い、学校への団体貸出のうち読み物・絵本セットの貸出増につなげることができた。(平成29年度：250冊→平成30年度：902冊)
- ・貸出カウンターとレファレンスカウンターや児童カウンター、中央図書館と分館が緊密に連携することで、レファレンスの処理件数は年々増加している。

○課題

- ・図書館の電算システムが令和元年11月末に更新時期を迎えることから、業務用システムだけでなく、ホームページやWebOPAC(蔵書検索)についても利用者にとって使いやすくなるよう改善を図る必要がある。
- ・学校用書庫の本や読み物・絵本セットに対するニーズを把握するためには、今後も学校司書と意見交換する機会をつくる必要がある。

○今後の対応

- ・ホームページを含めた図書館の電算システムを更新し、タブレットやスマートフォンなどモバイル端末にも対応したサービス、WebOPAC(蔵書検索)の機能向上を図る。
- ・学校司書の研修会に定期的に参加するなど、総合教育センター、学校図書館支援センターの担当者、学校司書と意見交換する機会を設け、学校の利用状況に応じた働きかけを行うほか、読み物・絵本セットも含めた学校用図書の内容の一部見直しを図る。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・月1回のメールマガジン配信に加えて、図書館独自の公式ツイッターの運用を9月から開始したことにより、事業のお知らせだけでなく、開催中の様子や開催結果を写真付きで随時アピールが出来るようになったほか、特設コーナーなど図書館資料についての情報もタイムリーに発信できるようになった。
- ・メールマガジン、ツイッターのQRコード付きのポスターを全館のカウンター周辺に掲示したほか、名刺大のカードを作成して講座参加者やカウンターで配布したり、チラシを袖ヶ浦駅北側のマンションにポスティングしたことで、ツイッターだけでなくメールマガジンの登録者も増加した。
(参考) メールマガジン登録者数 平成29年度末：134人→平成30年度末：167人
ツイッターフォロワー数 平成30年度末：155人
- ・ホームページのリンク先に「そでMAP」(袖ヶ浦市内の生活情報を電子地図上に表示)、「新聞記事文庫」(神戸大学経済経営研究所が作成した明治末から昭和45年までの新聞記事の切り抜きを収録)などを追加し、内容の充実を図った。
- ・平成30年度から中央図書館と長浦おかのうえ図書館で国立国会図書館の「れきおん(歴史的音源配信サービス)」が利用できる環境を整備し、館内掲示だけでなくホームページやツイッターを通じて周知した。
- ・7～8月に実施した利用者アンケートの中でWi-Fiや電子書籍、SNSを活用した広報など情報化社会に対応したサービスに関する設問を設け、利用者ニーズの把握を図った。

<継続>

- ・ホームページ上で毎月、前月分の袖ヶ浦市関連新聞記事一覧を公開したほか、平成29年度1年間分の記事一覧を冊子体にまとめ、地域情報の充実を図った。また、市役所内で活用してもらえるように、平成30年9月分から、市役所職員向けの掲示板にエクセルファイルでの掲載を始めた。
- ・「夏のトショロ月間」では、「親子いっしょのおはなし会」として、袖ヶ浦高等学校生徒による読み聞かせを行った。また、中央館児童室では昭和中学校図書委員によるおすすめ図書の展示、長浦の市民ギャラリーにおいて蔵波中学校美術部員による作品展示を行った。
- ・「秋のトショロ月間」において、中央図書館で昭和小学校生徒が自分の好きな星野富弘の作品を模写した詩画を展示した。
- ・中央図書館の青少年コーナーで「袖ヶ浦高校図書委員のおすすめ図書」を展示した。(11月22日から1月末まで展示)
- ・高齢者が利用しやすい資料として、朗読CDを中央、長浦、平川で合計37点(31タイトル)、大活字本を根形公民館図書室を除く全館で110冊(43タイトル)購入した。
- ・総合教育センターが中央図書館を会場として毎年7月に開催する「調べ学習相談会」では、講師の助言を受けた参加者の要求に応じて図書館の職員が適切な資料を紹介、提供する形で連携し、小中学生の調べ学習を支援した。
- ・平岡公民館の通学合宿で公民館図書室を活用したほか、平川公民館・根形公民館・平岡公民館の公民館まつりでは「秋のおはなし会」「すきすき絵本タイム」などの事業を連携して行った。また、公民館5館合同開催の幼児家庭教育学級において、絵本の読み聞かせ講座の講

師として、図書館の司書が子どもに対する読み聞かせの意義などについて話をした。

- ・NPO「子どもるーぷ袖ヶ浦」主催の「子どもるーぷまつり」に参加し、図書館職員とボランティアによる出張おはなし会を実施した。
- ・外国語図書として、海外の有名な賞を受賞した英語の絵本を9冊、一般書1冊（「5か国語でわかる介護用語集」）を中央図書館で購入した。
- ・館内閲覧用の電子図書として朝日新聞、日本経済新聞記事のデータベース、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを導入し、市民の調査研究支援に活用した。夏休み期間中には、朝日新聞データベース聞蔵Ⅱビジュアルの無料トライアルを導入し、児童生徒の調べ学習に活用した。

日本経済新聞記事データベース閲覧件数30件（平成30年度 閲覧件数44件）

朝日新聞記事データベース閲覧件数 128件（平成30年度 閲覧件数450件）

国立国会図書館デジタル化資料閲覧件数62件（平成30年度 閲覧件数31件）

- ・市内中学校の職場体験学習、木更津総合高等学校のインターンシップを受け入れたほか、ちば南部若者サポートステーションの通所者を受け入れ、図書館の仕事の一部に携わってもらった。

外部評価

○全体評価 : A

○図書館協議会からの意見

- ・市民が図書館をより利用しやすくなるように、モバイル端末に対応した電算システム等の環境整備を進めていただきたい。
- ・学校図書館への対応として、学校への団体貸出用図書がより活用されるように、学校司書とも意見交換しながら、内容の見直しを検討していただきたい。

サービス目標（3）利用者に応じたサービス

令和2年度想定市人口 64,000人
 平成31年4月1日市人口 63,704人

サービス評価指標	実績(H.30)	目標値 (R.2)	達成率	
☆⑭児童サービスの充実 ・ブックスタートにおける本の配布率(%)	82.7	100	82.7%	A
☆⑭児童サービスの充実 ・おはなし会参加者数[館内・館外合計](人)◆	12,516	12,000	104.3%	A
☆⑭児童サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(回/年)	4	4	100%	A
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(Y・A)	1	1	100%	A
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(ジュニア)	1	1	100%	A
☆⑯高齢者サービスの充実 ・大活字本の貸出冊数(冊/年)	4,123	5,000	82.5%	A
⑰障がい者サービスの充実 ・宅配サービス(冊/年)	359	350	102.6%	A
☆⑱図書館ボランティアの育成(名)	74	70	105.7%	A
⑲来館者満足度	78.2	75.0	104.3%	A

◆【平成30年11月改定】学校ボランティア活動の充実を勘案し、目標値を変更した。

（後期計画におけるサービス内容）

①子どもたちのために

今後も子どもたちが読書の楽しさを体験し、本に親しむことのできる読書環境の充実に向けて、学校、幼稚園、保育所等との連携を図りつつ、「袖ヶ浦市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの発達段階に応じた、わらべうたであそぼう、えほんのへや、おはなし会を開催するとともに、新たに健康推進課の4か月児教室において、ブックスタートを実施し、乳児期からのサービスを提供します。

②高齢者のために

今後も、高齢者に配慮した施設の整備を図り、大活字本などの資料の充実に努めます。また、社会福祉協議会、高齢者クラブ等の関係機関・団体との連携を図りながら、映画会、講習会等の読書普及事業の実施、図書館利用の際の介助など、きめこまかな図書館サービスの提供に努めます。

③図書館利用に障がいのある人のために

宅配サービス等の利用案内を引き続き広報等でPRに努めると共に、目の不自由な方へのサービスについても、要望があった場合には的確に対応できる体制を整えます。

④主体的に学ぶ市民のために

市民が読書に親しむ取り組みとして、図書館サークルやボランティアの協力を得ながら、市民に親しまれる図書館を目指し、あらゆる世代に対し図書館の利用や読書に結びつくよう、各種講座・講演会、名画鑑賞会、資料展示等を開催していきます。また、公民館や博物館等の社会教育機関、学校、民間の関係機関との共催事業等、多様な学習機会の提供に努め、市民の情報活用能力の向上を支援するため、学習機会の提供に努めます。

- a. 余暇活動支援
- b. 学習生活及び調査研究支援
- c. IT支援
- d. 行政支援
- e. ビジネス支援

⑤サークル活動をする人のために

市民が図書館資料を共有する中で交流し、暮らしに根ざした自主的な活動を展開していくことは、地域の文化活動を豊かにします。図書館では市民の文化活動、コミュニケーション活動の拠点として、図書館資料、施設を利用して活動するサークルに対して、その活動を支援します。

⑥ボランティア活動をする人のために

市民のニーズにあった事業を展開していくために、市民の知識や技術を生かした市民協働の図書館運営を目指し、新たに展示、映画会事業をはじめ、様々なボランティアを養成します。

内部評価

○全体評価 : A

- ・開始時刻を定めず子どもが来館したら行う「おはなしのじかん」の実施、子ども映画会や「かみのおはなやさん」とタイアップした開催、手製の「トショロカード」の配布など、子どもの参加を促す様々な取り組みにより、館内・館外おはなし会の参加者数合計が前年度より大幅に増え、12,516人と過去5年間で最も多い参加者数となった。
- ・「おはなし会ボランティア養成講座初級編」を開催したほか、資料展示と映画会についてはボランティアを募集する説明会を開催し、合計74名の図書館ボランティアを登録することができた。資料展示や映画会については、ボランティアと職員が定期的な打ち合わせを行い、ボランティアとの協働による事業運営が定着してきた。

○課題

- ・おはなし会の内容を充実させるため、平成30年度の初級編で養成した絵本の読み聞かせボランティアを対象に、素話についても習得してもらい、おはなし会ボランティアを増員する必要がある。
- ・高齢化が進行する中で、高齢者が利用しやすい大活字本や視聴覚資料は、今後も継続して収集していく必要がある。
- ・認知症予防の講演会が好評だったことから、今後も、高齢者にとって関心の高い生活課題について講座を開催するとともに、図書館資料を効果的に紹介していく取り組みが必要である。
- ・本市への子育て世代の転入者が増えているので、乳幼児など未就学児向けのサービスを充実させる必要がある。
- ・図書館ボランティアが70名を超えたことから、今後はボランティア相互の連携を深め、図書館におけるボランティア活動をより一層定着させていく必要がある。

○今後の対応

- ・大活字本や朗読CD等、高齢者が利用しやすい資料を今後も継続的に収集していく。
- ・高齢者にとって関心の高い生活課題について、「秋のトショロ月間」等の機会に講座を開催するとともに、関連する資料を館内の特設コーナーなどで特化して取り上げていく。
- ・平成30年度に新しく養成した絵本の読み聞かせボランティアを対象に、素話をテーマとした「おはなし会ボランティア養成講座中級編」を開催し、おはなし会の内容の充実を図る。
- ・市内のすべての図書館・図書室に幼児向け絵本コーナーがあることを積極的に周知し、幼児絵本コーナーに隣接させて育児書コーナーも全館に設置する。
- ・平川図書館の「おはなしのへや」と公民館図書室の「ふれあい読書コーナー」を、開館中は「いつでも親子タイム」として開放し、乳幼児と保護者の参加を促進する。また、ブックスタートのフォローアップとして、「すきすき絵本タイム」への参加を積極的に呼びかけていく。
- ・今後も関係機関や社会教育推進員、図書館ボランティアとの協働により個々の事業内容を充実させていくとともに、図書館ボランティア相互が交流し、意見交換する機会をつくる。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・子どもたちがおはなし会に参加しやすくなるように、中央図書館と長浦おかのうえ図書館で、開始時刻を定めず、一定の時間帯の中で、おはなしを聞きたい子どもがいたらおはなしをする「おはなしのじかん」という形に開催方法を改めたほか、平川図書館ではおはなし会を必ず子ども映画会や「かみのおはなやさん」とのタイアップで行うこととし、「おはなしの花たば」として事業が定着してきた。
- ・図書館の事業への子どもの関心を高めるため、6月から子ども映画会とおはなし会に参加した子どもには、図書館のイメージキャラクターを描いた手製の「トショロカード」を配り、カードを5枚集めるとプレゼントを渡すことにし、参加者の増につながった。
- ・おはなし会の充実とボランティアの増員を目指し、おはなし会ボランティア養成講座初級編を開催した。絵本の読み聞かせについて学び、17名の参加者のうち、8名が令和元年度から絵本の読み聞かせボランティアとして活動している。また、養成講座修了後も、おはなし会ボランティアと共に、読み聞かせの練習会を定期的実施した。
- ・加入している視覚障がい者用データベースの利用要件が緩和され、視覚障がい者だけでなく、視覚による表現の認識に障がいのある方、視覚著作物をそのままの方式では利用することが困難な方も対象となったことから、新たにチラシを作り、障がい者支援課、障害者相談支援事業所「えがお袖ヶ浦」等に配布した。
- ・近年は図書館においても市民の交流の場としての役割が重視されてきていることから、試行期間を経て中央図書館の閲覧室を自習にも開放した。

<継続>

- ・子どもの読書に関心のある市民のために「子どもの本の講座」を開催し、58人の参加があった。講師からは海外での読み聞かせ活動や、絵本の持つ力や読み聞かせの大切さについて語っていただき、アンケートでも回答者48人中44人から「よかった」以上の評価を得た。
- ・ブックスタートを毎月、4か月児を対象に市の保健センターで実施した。市の人口増に伴い対象となる乳児も増えたことから、午前だけでなく午後も開催する月があり、年間のブックスタート実施回数が18回、ブックスタートパックの配布数も477セットに増えた。(前

年度は12回、451セット)

- ・夏休み期間中に「夏のトショロ月間」を開催し、社会教育推進員が企画した「マザーグースでてあそび」「はらぺこあおむしの手づくり工作」のほか書庫探検、将棋体験教室、おはなし会ボランティアや袖ヶ浦高校と連携した「なつやすみとしょかんであそぼう」、グループサークルによる人形劇など、子どもの読書活動につながる様々なイベントを行った。(参加者数の合計は1,364名)
- ・読書週間をはさんで「秋のトショロ月間」を開催し、中央では井原西鶴についての「文化講演会」や夏目漱石についての「文芸講座」、長浦では高齢者支援課との共催で「図書館を活用した認知症予防」講演会を開催した。また、社会教育推進員が企画した中央図書館の中庭を活用した「トショロの庭 Tea Time」、歌舞伎舞台のビデオ上映、映画会ボランティアが企画したプログラム「映画のグルメー映画と食のステキな関係」による上映、図書館登録サークルによる作品展示やコンサート等を行ったほか、平川・根形・平岡では「本のおたのしみ袋」の貸出も行った。(参加者数の合計は1,359名)
- ・障がい者への宅配サービスでは、個々の利用者が希望するジャンルの図書リストを作成するなどきめ細かい対応を行い、延べ71件、合計359点の資料を提供した。うち視覚障がいのある利用者には視覚障がい者用データベースを活用し、デイジー図書を提供した。(利用者1名、貸出点数80点)
- ・参加者相互の交流の機会をつくり、事業内容の理解を深めることを目的に、文芸講座の最終日には講師との懇談会、名画鑑賞会では上映後に感想を話し合う「シネマトーク」を年3回実施した。
- ・図書館来館者の利用実態や満足度、意見等を把握し、今後の図書館運営の参考とするため、利用者アンケート(隔年実施)を行い、来館者満足度は78.2%であった。アンケート結果については、自由記述欄に書かれた主な意見への回答を作成し、図書館のホームページ上で公開した。

外部評価

○全体評価 : A

○図書館協議会からの意見

- ・中央図書館の中庭活用事業など、図書館の利用につなげる読書普及事業の取り組みだけでなく、大活字本コーナーなど書架案内掲示の改善、平川図書館の利用喚起につながる平川公民館1階掲示板の活用など、図書館資料の紹介についても取り組んでいただきたい。